

松平伝流は傳ふ十騎お臨上牧部より急之
下治志志つを大焼寺の城に急之と同時之
治志志つハ慶長五年二月上ハ切入り時伝則
武勇の名ありによりて之上急ハ臨ふと云ふ
一使を遣ふられ大領事を遣ふ光の云と
お戦ひ從ふと云ふ討死と云ふは末城代の人
見ハを按さるに松平伝流討死の時付城を
焼さす後居館を築さるや元和八年相
馬大膳亮及二城を更とせられ時々附も南城

を更之後の事ハ見ハを按ふといふと
く羽後記本の國記ハ大浦城尾浦城あり
尚邑ハ大浦山勝安寺といふる所あり尚城
を移ふといふ事あり又尚而相尾社を以て
産文といふ尾浦といふハ相尾浦の略稱や
浦ハありて浦と云ハ嘉祥年中地勢
變改以前ハけし海邊にありけしを後ハ居を
別而ハ移しけしや又ハ郡中ハ海水漲入
るに由る名や勝安寺を大浦山と云
ふ所を浦所といひける所山の古中より貝を